

関係各位

(一社) 沖縄県歯科医師会
会長 真境名 勉
(公印省略)

平成30年度歯科医療従事者技術向上支援研修会（歯科医師向け）のご案内

平素より本会会務運営に対しご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。

さて、昨年引き続き地域医療介護総合確保基金を活用して、標記研修会を開催することとなりました。

今回は、午前の方に山方内科医院 院長 山方 勇次先生に講演いただき、午後の方では那覇市立病院 歯科口腔外科総括科部長 津波古 判先生にご講演いただきます。

沖縄県歯科医師会事務局へFAX（098-996-3562）にて、平成30年10月16日までにお申し込み下さいますようお願い致します。

多数のご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

日 時：平成30年10月21日（日）

○午前の部：10:00～13:00

演 題：『歯科領域に於ける漢方療法への誘い

～明日から役立つエキス方剤の上手な使い方について～』

講 師：山方内科医院 院長 山方 勇次先生

○午後の部：13:30～14:30

演 題：『歯科口腔外科疾患患者の東洋医学的な診断と治療について』

講 師：那覇市立病院 歯科口腔外科 総括科部長 津波古 判先生

場 所：沖縄県口腔保健医療センター 二階 大研修室

対象者：歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・歯科助手・医療関係者

平成30年度歯科医療従事者技術向上支援研修会（10/21 歯科医師向け）申込書

医院名・所属	申込者名	職 種

※連絡先

TEL (_____) FAX (_____)

『歯科領域に於ける漢方療法への誘い』

～明日から役立つエキス方剤の上手な使い方について～』

山方内科医院 院長 山方 勇次

歯科疾患は西洋医学的な外科的治療法が最も確立された領域の一つであり、また、抗生剤や鎮痛剤が有効な場面も多く、漢方薬を使う頻度は決して多いとは言えないのが現状であると察します。ちなみに現在、健康保険で収載された歯科医療用の漢方エキス剤も未だ11種類程度に留まっており、保険診療事情も未だ極めて厳しい現状にあると言わざるを得ません。しかし、実際の医療現場に於いて西洋医学的治療に抵抗性を示す歯牙疾患で漢方薬が有効な場合が決して少なくないのです。

浅学ながら例えてみますと歯槽膿漏は慢性の化膿性歯周炎ですが、西洋医学的な外科治療や抗生物質、消炎剤に抵抗し排膿を繰り返しながら遂には咀嚼機能を低下させる経過を辿っていくものと思われまふ。このような難治性の燻り続ける慢性炎症を漢方では熾烈な急性炎症の「実熱」に対峙して「虚熱」と云う概念で捉えます。その治療は清熱涼血薬（消炎薬）と補陰薬（陰とは体内の水分や肉体のこと）を合わせて配合した甘露飲や柴胡清肝湯などの補陰剤（組織の脱水や搾滅を治す薬）と呼ばれる方剤を主薬に用います。

さらに体力が低下し、炎症を収束させるエネルギー不足が炎症の慢性化要因となっている場合や抗生剤に抵抗性を示し排膿を繰り返す抗病力の低下した病態を漢方では「気虚（機能低下のこと）」と云う概念で捉えます。そして気虚に対して補中益気湯や十全大補湯などの朝鮮人参を含む補剤と呼ばれる体力・抵抗力・元気をつける方剤を補陰剤に併用します。また膿漏の処置に関しては、排膿散及湯は副作用も少なく抗炎症作用も併せ持ち、歯槽膿漏の排膿剤として速効性があり眼を疑う程の劇的な効果を発揮します。

一方、同じ歯槽膿漏という診断名でも高齢者で炎症がそれほど強くなく、萎縮病変の方が主な場合には八味丸加減や固歯健周湯などの抗萎縮・抗老化作用のある補腎剤（この場合の腎とは西洋医学の腎臓ではなく漢方五行理論のジン・機能ユニットのこと）と呼ばれる方剤を主薬にして用います。これらの補腎剤には抗萎縮・抗老化作用のある補腎薬に、作用の弱い清熱薬や補陰薬を加えてあり歯牙をアンチエイジングします。このような治療で病態に合わせて試行錯誤を繰り返しながら漢方療法を続けていくと徐々に炎症が収まっていき抜歯をせずに済むケースを良く経験し、患者さんにとっても感謝されます。

「歯痛」は抜歯後・外傷・歯冠破折や急性及び慢性の歯髄炎・歯周炎、帯状疱疹後三叉神経痛・舌咽神経痛など様々な病態で起こり急に咀嚼困難になることも多々あります。歯痛に対して西洋薬のロキソプロフェンを始めとした鎮痛解熱薬が無効の場合も多いと聞き及んでおります。また、不幸にも鎮痛剤アレルギーに遭遇した場合には医療事故の原因ともなりかねません。漢方では症状名である歯痛という症候群を「瘀血」という概念で捉えます。瘀血とは簡単に言えば静脈系の鬱滞を基盤として起きる症候群のことで、瘀血を駆逐する作用のある駆瘀血剤と呼ばれる漢方方剤群が効く病態のことを意味します。

歯が痛いと言えば迷わず桃核承気湯です。桃核承気湯は一般的に漢方商業雑誌の啓蒙の影響から習慣性便秘薬のイメージが強いと思われまふが、実は抗炎症性・瀉下性駆瘀血剤として難病漢方治療のスーパースターなのです。歯痛はその原因疾患を取り除かねば再発することは無論の事です。しかし、驚くことに歯痛の原因疾患を問わず桃核承気湯を少し下痢する位に多め（エキス剤で一回3包以上）に服用すると、15分で劇的に疼痛が緩和します。桃核承気湯に配合される桂皮はシナモンが主成分ですが、口腔を始めとした身体上部・頭部の血行を良くして疼痛性疾患によく効きます。加えて桃の種子である桃仁で静脈系の鬱滞を除き、更に大黃・芒硝で炎症を抑え、下痢を起こして疼痛起因性物質を便に排出します。桃核承気湯の止痛効果をいったん経験すると歯痛の予防のために「歯の神経を抜く」という非合理的な苦渋の選択は二度としたくなくなるはずで、また歯痛のために西洋薬の鎮痛剤を副作用の危険を冒してまで処方する気にならなくなると思われます。

今回は主に私の専門分野である医科診療に於いて、漢方薬が西洋薬に勝る効果を発揮できる病態・疾患に関して自験例を交えながら提示します。今回の研修会で漢方薬の素晴らしさを実感して頂くことで、明日からの歯科医療に何かしらお役に立てることを願いながらプレゼンテーションしたいと思います。

『歯科口腔外科疾患患者の東洋医学的な診断と治療について』

那覇市立病院 歯科口腔外科 総括科部長 津波古 判

現代日本の医療は、西洋医学が中心であります。しかし近年、西洋医学のなかに東洋医学的な考えを取り入れる『統合医療』に徐々に注目が集まっています。東洋医学は患者さんの自覚症状や症候を重視して、病態に着眼し、治療を行います。そのため西洋医学ではあまり着目されていない概念である、「冷え」や、「お血：古血が滞る病態」なども症候のひとつと考え、病態を取り除くことで、患者さんを悩ます症状の改善に至ります。

一般に東洋医学が効果を発揮するのは、自律神経、免疫機構、内分泌系が関与しているもののいずれかであることが多いといえます。歯科口腔外科疾患患者においては、難治性口内炎や舌痛症、口腔乾燥症の口腔粘膜疾患や顎関節症などが主な対象であります。今回の講演では、当科でおこなっている東洋学的な診断と治療について漢方を中心に発表する予定である。